

第3回豊岡市大交流ビジョンの実現に向けた財源のあり方検討委員会 会議録

開催日時 令和元年9月24日(火)10時00分～12時00分

開催場所 豊岡市役所本庁舎3階 庁議室

出席委員 平田委員長、白井委員、山田委員、岩井委員、高宮委員、芹澤委員、
宮崎委員、藤田委員、前野委員

欠席委員 増田委員

事務局 小林環境経済部参事、大交流課 谷口課長、吉本参事
財政課 畑中課長、政策調整課 井上課長

資料 1. 豊岡市大交流ビジョンの実現に向けた財源のあり方検討委員会 協議資料
2. 豊岡市大交流ビジョンの実現に向けた財源のあり方検討委員会 委員名簿

■主な議事

1. 開会

2. 委員長あいさつ

平田委員長

おかげさまで第0回豊岡演劇祭は盛況に終わった。市外からのお客様の半分以上が初めて豊岡に来た。直接聞くとほとんどの方が一度豊岡に行ってみたかったという声が多い。まだまだ豊岡は潜在力がある。文化観光政策はアートや文化を引き金にして観光地のポテンシャルを引き出すというものであり、今回は教科書通りに上手くいった。今後も協力頂き豊岡の観光を盛り上げていきたい。

3. 議事

(1)大交流ビジョンの実現に向けた財源のあり方について

①大交流ビジョンで定義した事項の再確認

②将来の具体的都市像の設定、将来の都市像の実現に向けて
事務局より協議資料に基づき以下説明を行った。

- ・ 第2回委員会から時間が空いていること、本委員会の設置目的が大交流ビジョンの実現に向けた財源のあり方検討という趣旨を踏まえ、大交流ビジョンに記述されていたことを再確認する。
- ・ 大交流ビジョンでは取り組み方針として以下6つを掲げた。
 1. 豊岡にしかない価値や豊岡でしか経験できないローカルを磨く。
 2. 成長市場であるインバウンドの宿泊誘客を重点的に取り組む。
 3. 国内旅行では、縮小する関西圏市場への依存から脱却し、新規市場を開拓する。

4. 観光需要の平準化を図り、年間を通じた安定的な雇用を創出する。
 5. 専門職大学との連携により人材の育成を図るとともに、待遇改善や働き方改革により人材を確保する。
 6. 地消地産を進め、地域内調達率を高めることにより、市内の経済循環を促進する。
- ・ 上記6つの取り組み方針を踏まえ、中目標（KPI）を設定。観光消費額は2030年までに10.9%増加を目指し、特にインバウンドの宿泊者数、宿泊消費額単価向上に注力する。また、NPSと経済波及効果を大目標（KGI）に設定している。
 - ・ 前回の議論から視点を変え、将来どのような都市像を目指し、そのために何が必要であり、推進していくための体制はどうすべきかについて議論したい。
 - ・ 将来の具体的都市像として「城崎温泉を中心とした国際観光リゾート」を案として掲げる。この案は以下のような前回までの議論の意見を集約し設定したもの。
 - 世界的なリゾートにはスポーツやアートなどのアクティビティが必要
 - 豊岡市の価値である景観や文化の保全、磨き上げが必要
 - 城崎温泉と周辺の観光地との連携が必要
 - 観光による市民の生活の質を高める環境作りが必要
 - 持続性を確保する仕組みが必要

上記を踏まえて各委員が意見を述べた。主な意見は以下のとおり。

委員

大交流ビジョンの議論には関わっていないが、3つ意見がある。まず、世界唯一であるコウノトリのストーリーを活用すべきだということ。次に、TOJI（湯治）というと健康やヘルスツーリズムの印象が強いため、例えば7日間～10日間の滞在型プログラムという捉え方をすべきだということ。最後に、インバウンドの宿泊誘客に注力するとなると、城崎だけでなく豊岡市全体で考えるべき。リゾートという言葉を用いるのであれば、ハードとソフト両面の整備が必要。例えば外部資本による豊岡の宿泊施設運営の是非といった議論も必要。城崎を念頭に議論するものの、それ以外の地域にも言及する必要がある。

委員

コウノトリについては同じ思い。2年連続市長がバードフェアへ参加しており、今後更に力を入れていく。世界的なPRにも用いられるし、国内では修学旅行でも活用できる。TOJIについても提案頂いた内容含め、新たなテーマとして検討したい。インバウンドの宿泊誘客についてもおっしゃるとおりであり、宿泊施設の手立ても必要。将来の都市像として城崎を中心として各地域含め検討する必要がある。

委員

議論全体としてはこの様な方向性だろうと思うが、城崎以外の地域についても議論すべき。豊岡よりも城崎の方が知名度は高い。城崎を中心として豊岡市全体を盛り上げていくイメージにしないと他地域の賛同が得にくい。

委員

TOJI そのものというより、昔からの城崎温泉らしいイメージを守り、2泊3泊と連泊しながらゆっくり散策してもらうことが城崎の魅力。また、城崎がリーダーシップを取り豊岡市全体の観光を支えるという意識で動いていくことが重要。

委員

コウノトリは魅力的なワードであり、豊岡にとって大きな意味がある。ただし、商品になりにくいという悩みもあり、一般消費者には届きにくい。ジオパークもお客様に具体的なイメージがない。演劇やアートの取り組みも素晴らしいが、毎日開催されるものではない。豊岡市全体の認知度やブランド力を上げると共に、具体的に集客をどうするか等を検討する組織や議論が必要。二次交通の課題等も併せて進めたい。

委員

コウノトリは本物であり、世界に一つのコンテンツ。コウノトリのストーリーは何十年かけて豊岡市民が育ててきたシビックプライドでもある。コウノトリへの意識を上げて欲しい。

委員

ジオパークとコウノトリは少し違う。ジオパークという言葉には学術的なものという反応を示す方もおり、ジオパークという言葉だけでは魅力を打ち出すのは難しい。コウノトリは世界中に薄く広くお客様がいる。そのため逆に単純にツアーを作っても来ない。徹底したメディア対策が必要。

委員

コウノトリはSDGsと併せて、コウノトリ米や保全活動等があり、旅行会社等への提案準備中である。地域毎のターゲットと併せて考え、滞在を少しでも長くして頂く様なプロモーションを考えていく必要がある。

委員

TOJI や滞在型というリゾートを目指す場合、顧客目線では「どこに泊まるか」より「何ができるか」という「活動」が行先選択のポイントとなる。1泊2泊という短期滞在であれば宿が大事だが、滞在型のマーケティングではお客様の選択のロジックや順番を意識すべき。また、日本は中高年や高齢の方が多いためその方をイメージしがちだが、海外のメインマーケットである若い世代をイメージしてマーケティングを考えるべき。二次交通についても、豊岡というサイズ感を踏まえ、公共交通機関だけではなく自転車や電動バイクなども上手く使い課題解消すべき。例えば自転車に乗ること自体をアク

ティビティにしてい、コウノトリや出石城下町など多様なコンテンツを巡れることを魅力として打ち出すことも良い。そうした発想の転換が必要。

委員

TOJIについては城崎でも議論していた。城崎温泉は来年、開湯 1300 年を迎える。元々病気や体を治す目的の方が長期滞在していた。それを海外の人にも分かる様に、新しい概念として英語で打ち出すというのが基本的な考え方。海外の人はそぞろ歩きについても理解していないのではないかという疑問もあり、TOJI を再定義し、温泉を核とした楽しみ方を皆様と議論しながら考えたい。また、我々も自転車の可能性には注目しており、チャレンジライドを行っている。自転車を利用する海外の方も多く、竹野と城崎での乗り捨てや、コウノトリがキーワードとなる豊岡では車に頼らない移動も重要なポイントだと考える。

委員

家族旅行でネスタリゾートへ行ったが、ゴルフカートでプールやホテル、温泉等を回ることができ、非常にワクワクした。竹野にもゴルフカートを導入し、それで城崎にも行ければ面白い。また竹野でナイトミュージアムの開発も行いたい。プロジェクションマッピングやビーチのバーで音楽が楽しめる等が出来ればと考えている。ジオパークは学識者寄りでお客様に伝えることが難しく、コウノトリの郷公園についても子どもが満足する施設がないため、もう一工夫欲しい。コウノトリ育む農法で作った手作りみそも、北前館では売れるがコウノトリの郷公園では全く売れない。コウノトリ郷公園には購買意欲のあるおばちゃん世代が訪問していないことが原因と考える。城崎を中心としたリゾートを作るにせよ、他の宿泊事業者の情報が乏しい。現場プロデュースのプロに入って頂くことや情報の一本化を行ってほしい。

委員長

竹野でのプロジェクションマッピングの話は私にも来ており、市長も関心が高い。

委員

私個人としては、若い頃に二世会(城崎温泉旅館経営研究会)に入っていたこともあり、城崎の動きが共有され、竹野でも関連施策が出来た。城崎温泉の様々な活動が豊岡全体の動きにはなっていない。組織体制については、豊岡ツーリズム協議会を作る際、豊岡市全体で観光協会を作れないかと言われたが、地域毎に行っている良いところが無くなってしまうのは良くないと考え、今の組織が出来たという経緯がある。豊岡ツーリズム協議会は調整機関。12 年間やってきたが、取り組みが地域に伝わっていない現状がある。城崎を中心とした協議会に皆が参加する様なもの考えるべきタイミングに来たのかもしれない。地域の良さを残しつつ先進的なところから考えを借りてやっていくという考え方も必要であるが、力のある地域とない地域の差が出てくるだろう。

委員長

推進体制はこの後議論する。

委員

現在城崎では駅前の旅館案内所の改装を含め、宿泊と観光を一体化して利便性、連携を高めていこうとしている。その中で、城崎を中心とした市全体のPRをやっていく。10月1日から、無料入浴券が翌日の15時30分まで使えるようになる。滞在時間を長くして連泊して頂く流れを作りたいと考えている。

委員

連泊に関して、これまでの日本のアプローチは、アクティビティを使って滞在日数を上げ、連泊させていこうというものであったが、これでは日本人マーケットは取れない。例えばニセコであればスキー場があり、一気に伸びた。つまりサプライヤーではなくデマンドの問題。そもそも長期滞在の需要を持った人が訪れると長期滞在の場所となる。日本人や東アジアの人達は短期周遊型の志向が強い。研究した結果、連泊する人は子どもの頃から連泊している。そういった経験値、連泊する志向がある人をまず呼び込むことが大事。また、コウノトリの郷公園で子どもが遊べないというのはその通り。玄武洞も凄いが、自分の子どもや妻を連れてきて喜ぶかという視点で言うと難しい。素材が悪いのではなく、そこをどう楽しむかという視点が不足しているのではないか。長期滞在を考える場合、そこに来る顧客の考え方を理解し、どう見せれば楽しんでもらえるかということを考え、デザインする必要がある。そうでないと素材に個性があるが故にバラバラ感が出てしまい、売れない。

委員長

札幌の小学生は修学旅行で富良野へ行く。ボトムになる5月6月に行き、午前中はゴルフ場での職業体験、午後は離島ワークショップツアーを行う。これは商品として好評。参加体験を組み込まないと教育面としては弱い。その観点でも豊岡は伸びしろがある。二次交通については非常に難しい面がある。第0回豊岡演劇祭ではKDDIとトヨタ・モビリティ基金にスポンサーとして入ってもらい、KDDIにはリストバンドでの顧客管理を、トヨタ・モビリティ基金には将来の自動運転を見据えた移動データの整理を行ってもらった。ただし、自動運転はいつ実現するかが見えない。昨日、新文化会館のシンポジウムがあり、駐車場の大きさについて議論があった。駐車場自体10年後には無くなるかもしれないという話もある。公衆電話は10年で無くなったし、そういうことが起こり得る。移動の形態も変わっていく。予測は不可能であり、行政は大きな動きをしない方が良いのではと思う。そういう時代に将来構想を作らなければいけない。豊岡が優位なのはトヨタ・モビリティ基金という世界で最も情報を持っているところと組んでいること。どの様な二次交通が最適かというのは観光だけでなく全体で考えていくべき。例えば、但東の子どもが交通課題により豊岡高校まで通えず、成績が良くても出石高校へ行っている。しかし、自動運転が実現すると全員豊岡高校へ行くことができ、

出石高校へ通う子がいなくなる。交通 1 つで行政全体が変わる可能性があるということ。

オブザーバー

豊岡観光協会に属しており、ホテルを経営している。20 年前は鞆の材料を販売していた。コウノトリを起因として、以前はお客様も多かったが、現在は下火。お客様の動きを読む必要がある。自分たちのやり方で何を売るか。コウノトリが良いかどうかではなく、時代の流れを読むことが重要。コウノトリグッズを売っていたが、豊岡市からやめてくれと言われた。自主財源を作りたいが、市は直ぐに出来ませんと言う。もっと民間の意見を取り入れて欲しい。山陰地方も大変な様だが、鳥取は補助金等も使って潤っていると聞く。そういったことも必要であり、市がもっと市民のことを考えて動くべき。固定資産税も高い。更に考えて欲しいのは人が来る方法。このままいけばますます衰退していく。

委員

城崎から豊岡へお客様が行っている情報はある。出来れば流れを掴みたいので、宿泊者の情報を共有頂けると有難い。また、民間の考え方を取り入れる仕組みとして一般社団法人豊岡観光イノベーション（以下「TTI」）があり、各種分析を進めている。総合的な、データに基づく観光分析をやっていきたい。民間からの意見は継続して頂きたいし、教えて欲しい。組織の中で情報交換していきたい。

オブザーバー

まずは委員長に感謝を申し上げたい。地域の救世主であり、全力で協力したい。どのまちも人口減などで衰退していく。その中で来て頂いていることは本当に有難い。城崎の話が出たが、2002 年から 2 年 8 ヶ月、合併時の町長をさせて頂いた。城崎は、私から見ると今がピーク。人手の問題と後継者の問題があり、今後衰退の可能性がある。地価が上がったのは城崎だけであり地価は地域の力だと感じる。豊岡に来る度に豊岡市役所は立派な市役所だと感じる。元々 30 億の計画が 60 億かかった。役所が如何にいい加減か。自分のために自分のお金を使う場合には節約するが、他人のお金を使う時が最も節約と結び付かない。これは役所の金の使い方である。町長をしていた時に無駄なお金の使い方を痛感した。入札や職員の配置等様々な無駄がある。城崎の経済規模内でだが、1 億～2 億程の節約を一年で実施した。城崎ですらそれぐらい出来る。役所の財政は、まず自らの給料を確保し、その後色々な予算を確保する。パトロンが必要だが、豊岡にパトロンを持つ気持ちがあるのか。民間は売り上げが落ちれば給与をカットする。失礼な言い方だが、チマチマした財政のあり方とか、自分たちでお金を生み出す方法を考えるべきではないか。中貝市長の代はもつだろうが、今後はおかない。根本的に行政のあり方や衰退する地域のあり方からすると、豊岡市も衰退するだろう。光っているのは平田オリザさんの存在だけ。相当心してやらないとみんな不幸になる。余りにも甘すぎる。

副市長へコメントをお願いする。

委員

我々も甘んじてこの状況を良いと思っておらず、現在第 4 次行財政改革を進めようとしているが、かなり高い目標を持ち財政カットを行う予定で動いている。勿論人件費についても議論はあり、業務の外部委託等含め考えている。ただし、市には様々な行政に関するサービスが増えている中でむしろ人手が不足している状況。最終的にどうしようもならなければ職員の懐に手を付けることもあるかもしれないが今はその時でないとする。出来るだけ早く削減に関しての施策も立てていきたい。そこは約束する。

委員長

様々なご意見ありがとうございます。頂いたご意見を事務局で整理し、進めていく。時間の都合もあるので次の議題へ進める。

③持続性を確保する仕組みづくり

続いて事務局より協議資料に基づき以下の説明を行った。

- ・ P11：現在の各団体の活動イメージを整理。縦の軸にインバウンドと国内、横の軸にリアルと WEB を置いている。国内向けの WEB 施策が抜けている状況。
- ・ P12：大交流ビジョンに記載した推進体制と活動領域のイメージ。全体のマネージメントとマーケティングを TTI が行い、様々な組織が絡んでいる。
- ・ P13：現在の観光協会等の組織体制については、各観光協会と TTI の役割や機能分担が明確化されていないことや関係性が希薄であることが課題。
- ・ P14：TTI の組織体制については、意思決定機関は出資社員となる総会が担っている。課題は執行機関とチェック機関が重複していることと各観光協会が運営に関わっていないこと。
- ・ P15、16：他の事例として海の京都 DMO や大阪観光局があり、それぞれ観光協会と連携が伺えることや、大阪観光局では評議員会と理事会を分けて運営していることがポイント。

上記を踏まえて各委員から意見を述べた。主な意見は以下のとおり。

委員

TTI は大変熱心に活動しており、Web マーケティングも良くやっている。しかし、各観光協会と目標や成果の共有が出来ていない。また、観光に関する依頼をする際に、地域振興局、大交流課、TTI のどこに頼むべきか迷う。観光についてそれぞれ共通の目標を持ち予算も検討すべき。

委員

豊岡ツーリズム協議会は12年前に発足し、調整機関として動き、事務局は大交流課が担ってきた。発足当時は年間数回の活発な議論があったが、ここ数年では報告のみの議論が年2回か3回行われる程度。TTIとの議論も報告のみ。組織の陳腐化を感じており、ゼロから作り直すべき。全国のDMOの80%は失敗していると言われ、また組織から成り立ったDMOのほとんどは失敗している。TTIは上手く行っているのか。DMOでは無くDMCというカンパニー組織であれば結果責任もあり良かったのではないか。TTIの組織図を見ても、地域の観光に関わる方もいない。観光推進組織である観光協会や大交流課、TTIの組み合わせや役割を考え議論したい。

委員

TTIの活動が外に伝わっていないことは反省点。日本のDMOの多くが失敗している中でTTIは数少ない成功事例として評価されている。多くのインバウンドに来て頂いているのも徹底的なWebマーケティング等の成果。TTIは小さな組織であるため、タイなどターゲットを絞りアプローチして成果を上げている。地域全体としてのマーケティングや観光協会の皆様との役割分担等議論していきたい。

委員

成功事例とおっしゃられたが、私は最初の失敗事例の一つと聞いている。城崎の成功がTTIの取り組みの成果だと捉えられているのは素晴らしいことだが、各地域の活性化に繋がっているのか。情報を一本化する組織としては良いが、方向性を定め判断していくべき。

委員

今後のTTIをどうすべきかというのは大きな論点の一つ。TTIは頑張っているDMOの一つであることは間違いない。勿論出来ていないことや足りないこともあるが、やるべきことをやっているまともなDMOだと言える。気になるのはTTIと大交流課、観光協会との関係。TTIが何をやっており、どこへ向かっているのかが分からない。本来DMOはプロ組織であり、プロ集団としてTTIを育てていくのであれば、5年後10年後のTTIのヒトとカネを考えた上でTTIが何をすべきかを議論すべき。TTIが観光のプロ集団組織になれるのかというのが気になる。

オブザーバー

観光は地域の総合力と街づくりだと思う。豊岡の足元にはシャッター通りが目立ち、衰退するまちという印象。昔は人が多かったが、現在はアーケードの端から鉄砲を撃っても誰にも当たらない状態。平田オリザ一団がお越し頂く中で、シャッター通りの活性化が出来ないかと。街が楽しくないと豊岡でホテル等をやっても人が来ない。その楽しさを作るために、平田さんの劇団と市が本気でやっているのか。最後のチャンスだと思う。行政としては恥ずかしいという思いでやるべき。

委員長

演劇祭で空き店舗の活用は積極的にやる予定。引き続きご協力頂きたい。

委員

TTI を含む観光推進体制の話はどこ地域でも議論されており悩ましい。国からの交付金は登録 DMO に対してのみであり、便宜上 DMO の運営は必要。一方、豊岡を観光で活性化していくことを考えると P12 の様な体制になる。皆さんの意見を伺い、各地域の観光協会と TTI、行政についてどういった役割分担や運営をしていくか整理すべきだと感じた。TTI 立ち上げ時は DMO 単体で利益を上げようというバイアスがかかっていた時期。城崎を中心とするなら城崎温泉観光協会を中心に自然体の DMO をデザインすべき。敢えて組織分離をし、ただし情報共有はしていくということも必要。DMO は地域からの信頼が必要。理想論を言えば観光マーケティング全般をやるべきだが、人と予算とセットで考えるべきであり、権限や報酬、責任、役割分担も重要な論点。DMO は個で対応出来ないことを皆でやろうというもの。各旅館や各地域の旅館組合で、自分達で出来ることと出来ないことを整理し、豊岡市全体で何をすべきかを DMO が集約してやればシンプルに落ちるはず。

委員

本日は豊岡ツーリズム協議会の会長・副会長がいらっしゃり、組織の話をする良い機会。TTI が地域全体の目標設定をする立場ではなく、目標設定は大交流課も入り、ツーリズム協議会や観光協会が中心にやるべき。その中で TTI がツーリズム協議会とも密接に関わりながら Web マーケティングや計画を作っていくもの。経費責任を持つという意味で TTI を DMC にして予算面を厳しく見るということも移行可能であれば意識すべき。

オブザーバー

但東は小さなまちであり、観光は何かというとクエスチョンマークがつく。どうしていくかについて何十年も議論してきたが、答えは出ない。今やっていることは中学生 100 名前後を対象とした農家民泊。これを増やすと言っても 300~500 名には増えない。いつも考えるのは、イベントをした際の利益はイーブンで良いということ。ただし、先立つ資金が確保できない。例えば、展望台の保全についても銀行からの借入が出来ず苦慮した。行政に助けて欲しい。

オブザーバー

この会議とは異なるが、アクションプランを考えるという会議に参加している。本来もっと回数を重ねるべきだが、地域に戻って議論してくれという話で 2 か月程度音沙汰無し。どんな状況なのか。

事務局

現在、各振興局と進め方について協議している。ただし、財源の用途についても話が出ていることから、アクションプランの前哨戦として財源の用途を議論し、具体的な使い

道はその後に考えるべきと感じる。

オブザーバー

大交流ビジョンに基づく前期アクションプラン策定ワークショップには2回出席したが、はっきり言って時間の無駄。やり方を考えて頂きたい。また、前回ご指摘した長期財政見通しの更新版を見たが、相変わらず市役所の職員は減らさない計画になっている。人口は2020年7万8千人、2025年7万4千人、2030年7万人と明記され、別資料では、年少人口は2020年約9,600人、2030年約7,700人になる。市長の最近の答弁においても、学校含め公共施設の再編を進めていくとおっしゃっている。これを踏まえ、2030年に向けた支出見直しも具体的にあって然るべきではないか。今回の議論で、観光財源約3.5億円というものがあるが、前回ご指摘させて頂いた通り観光に関係ないものも入っていた。1億円を宿泊税として取ればという議論もあったが、人件費が74億円かかっている中で、組織再編等で総額を減らすという資金の捻出を具体的に議論すべきではないか。

委員

長期財政見直しはあくまで今の制度を続けていくとこうなる、というもの。これから見直しをかけていく。

オブザーバー

全く理解できない。しっかり教えて頂きたい。

オブザーバー

ツーリズム協議会の会長をされておりその議論にも参加するが、未だにTTIと大交流課、ツーリズム協議会の関係が分からない。むしろ真水のお金が欲しい。TTIの予算の半分も頂ければTTIより数倍効果的な観光施策が取れる。私が町長時代に、行政は責任とスピードに欠けると職員に話した。過去、現在、未来に対する責任が役所には欠けている。豊岡市になっても同じ。TTIは必要なのか。城崎は独自で頑張っているが、それをTTIの成績にされるとカチンとくる。大交流という名前は良いが、どこにどんな相談したら良いか分からないため、組織をシンプルに、思い切った改変をして欲しい。

委員

P15に海の京都DMOがあるが、上手くいっている例として出しているのか。また、城崎温泉を中心として、と言いながらP14のTTI組織図の中に城崎温泉観光協会が入っていない。誰のためにやっているのかについても整理が必要。オブザーバーの方もおっしゃられたが、委員の意見として言っておきたい。予算の使い方についても、例えば京都や兵庫のインバウンド平均泊数が2泊~3泊に比べ奈良は0.5泊と乏しい。だから予算をつけようという用途の明確さがある。豊岡市は予算の組み方が漠然としている。何に幾ら使うかを明確にすべき。

事務局

海の京都 DMO は成功事例ということではなく、1つの事例として掲載している。

委員

これをそのまま TTI に持っていくのが良いというものではない。地元の情報、状況を加味して議論すべき。ツーリズム協議会と大交流課、TTI それぞれの関係の中で議論するべき。各協会からの意見を含めて地域のことを議論する場があっても良い。

委員長

沢山のご意見を頂戴した。組織に関して現場サイドからご不満があるというのは良く分かった。事務局側でもう一度整理して頂きたい。

委員

観光協会も頑張っているが、TTI も頑張っている。皆さんの意見を吸い上げて、豊岡版の良いDMO組織を作っていきたい。大交流課と TTI の役割ももう少しシンプル化したい。

委員長

専門職大学の学長候補として申し上げるが、来月認可申請を行い、順調にいけば 2021 年 4 月に開学する予定。その 4 年後には初めての卒業生が出てくる。学長としては、地元で 3 割、出来れば 5 割ぐらいは残って欲しい。ただし、就職先として大手企業を希望する学生もいることを考えるとなかなか難しい。それでも豊岡で働きたいという学生を受け入れる様なまちになって頂きたい、というのが学長としてのお願い。ではこれで終わらせて頂きます。

4. その他

事務局より次の 1 点について連絡があった。

- ・ 次回の財源のあり方検討委員会の日程は 10 月 25 日（金）15 時 30 分から

5. 閉会

以上